

1 インドの変遷 (P421年) 緑字：デリー=スルタン朝 トルコ系王朝

イスラム化	11世紀	アフガニスタンのガズナ朝、インドに侵入マフムード(スルタン)のとき、最盛期
	12世紀	アフガニスタンのゴール朝、インドに侵入ムハンマドが建国
	1206	奴隷王朝建国 (~90) ゴール朝の将軍アイバクが創始 都、デリー
	1221	モンゴル軍、インドに侵入、撃退される
	1290	ハルジー朝建国 (~1320)
	1320	トグルク朝建国 (~1414)
	1336	南インドにヴィジャヤナガル王国建国(~1649)
	○ヒンドゥー文化の繁栄(14c)	
	1347	デカン地方にバフマン朝(アフガン系)建国(~1527)
	1398	ティムールの遠征軍、インドに侵入
	1414	サイイド朝建国 (~51)
	1451	ロディー朝(アフガン系)建国(~1526)
	○カビール、ヒンドゥー教とイスラム教の融合を説く	
	1498	ヴァスコ=ダ=ガマ、カリカットに到着
	1510	ポルトガル、ゴア占領
	16世紀初	ナーナク、シク教創始
デリー=スルタン朝 (南北分裂時代)		
	パーブル (初代、位1526~30)	
	1526	バーニーバットの戦い→ムガル帝国 建国
	1540	フマーユーン スール朝に敗れ一時亡命
	アクバル (3代、位1556~1605)	
	○アグラ遷都、人頭税(ジズヤ)廃止、中央集権確立	
	1600	英、東インド会社の設立
	シャー=ジャハーン (5代、位1628~58)	
	○デリーへ再遷都 ●ムガル文化最盛期	
	1639	英、マドラス獲得
	○タージ=マハル完成、ラール=キラーを建設	
	アウラングゼーブ (6代、位1658~1707)	
	○領土最大、人頭税復活、シク教徒・ヒンドゥー教徒を弾圧	
	1661	英、ボンベイ獲得
	1664	仏のゴルベール、東インド会社再建
	1673	仏、シャンデルナガル獲得
	1674	マラータ族のシヴァージー、マラータ王国成立(~1818)
	1674	仏、ボンディシェリ獲得
	1690	英、カルカッタ建設
	1708	マラータ同盟結成(~1818)
	1710	シク教徒の反乱
	1757	ブラッシーの戦い(英、クライヴの活躍)
	1857	シバーヒー(セポイ)の反乱(~58)
	1858	東インド会社解散、ムガル帝国滅亡
	1877	インド帝国成立(~1947)
ムガル帝国 (1526~1858)		
インド帝国		

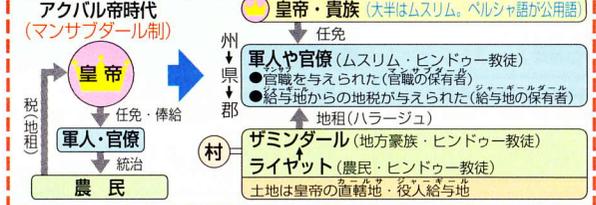
●インド=イスラム文化

- カビール、ナーナクの思想(ヒンドゥー教バクティ信仰とイスラム教スーフズム(P104号)の融合)→シク教の成立
- ウルドゥー語の成立(ヒンディー語文法にペルシア・アラビア系単語を取り入れる)→現パキスタンの国語
- 建築…モスクや廟にインド的要素加わる。玉葱型ドームなど 絵画…イランの細密画→ムガル絵画・ラージプート絵画

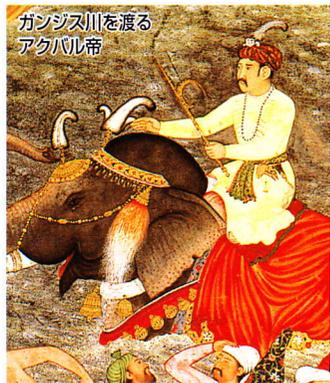
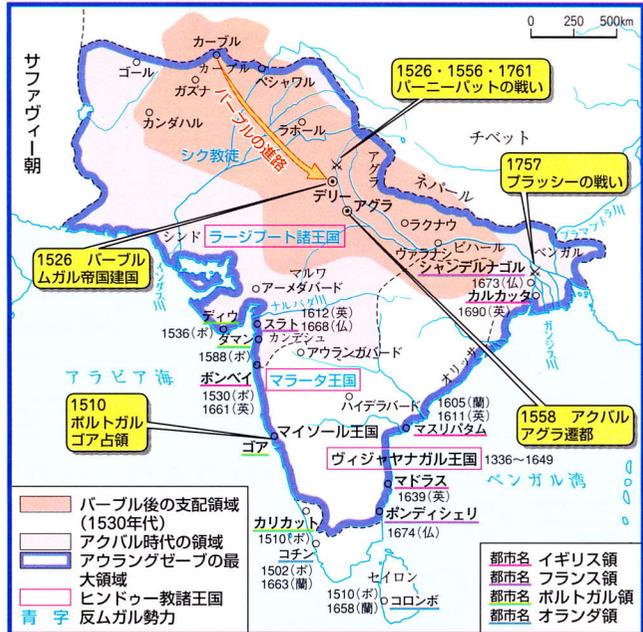
2 トルコ系民族によるインドのイスラム化



●ムガル帝国の社会 アウラングゼーブ帝以降 (ジャギールダル制)



3 ムガル帝国



ムガル絵画 中国の写実画風の影響を受けるペルシアの細密画が、アクバル時代



ラージプート絵画 ムガル絵画の影響を受けるが、ヒンドゥー教神話を画題にしたものが多く、民衆的。色彩が豊か。



タージ=マハル廟(アグラ郊外) ムガル帝国第5代皇帝シャー=ジャハーンが妃ムムターズ(愛称タージ)=マハルの死を悼んで建てた墓廟。皇帝は対岸に黒大理石の自分の廟を建てようとしていた。(P105号)



ラージプート族のマハーラージャ(大王)の宮殿(ジョドプール城) ラージプート族はインド西部に居住。古代武人の子孫を自称し誇り高い。デリー諸王朝から離反する傾向にあった。

シク教の総本山黄金寺院 (パンジャブ州アムリットサル) シク教はナーナクが創始したヒンドゥー教改革派。イスラム教の影響が強い。現在1800万人の教徒がいる。

